

(案)

北秋田市観光振興ビジョン

～森吉山の恵みと北秋田市の独自文化を生かした観光地域づくりに向けて～

令和7年 月

秋田県北秋田市観光文化スポーツ部

北秋田市観光振興ビジョン 目次

第1章	はじめに	1
1	背景と目的	1
2	ビジョンの位置付け	2
第2章	観光の現状と課題	3
1	観光資源のポテンシャル	3
2	観光客の動向	7
3	課題の整理	11
第3章	目指す姿	14
第4章	施策と目標	15
1	施策体系	15
2	中核となる施策	15
3	主要な施策と取組例	16
4	目標設定	20
第5章	施策の実施体制	22
1	各取組主体の役割	22
2	進行管理	23

参考資料

北秋田市観光振興計画策定委員会委員名簿

北秋田市観光振興計画策定委員会の策定経緯

第1章 はじめに

1. 背景と目的

北秋田市は、平成17年に鷹巣町・合川町・森吉町・阿仁町の4町が合併して誕生し、それぞれの地域の特色を生かした観光が展開されてきました。

しかしながら、近年は人口減少や高齢化の進行に伴い、地域における観光の担い手不足が深刻化しています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により観光客が大幅に減少し、地域経済にも大きな打撃を受けました。

一方で、ワーケーションをはじめとする新たな働き方の広がりや、自然志向の高まりを背景に、アウトドアや自然体験型観光への関心が高まっており、北秋田市においても、訪日観光客（インバウンド）も含め、森吉山の樹氷をはじめとする豊かな自然や地域固有の文化に触れる体験を目的とした旅行者の増加が見られます。

また、森吉山が国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地に選定されたことや、アウトドアブランド「モンベル」との包括連携協定の締結、さらには県北部のアウトドア拠点施設となる「道の駅たかのす」の整備計画など、観光振興に向けた新たな取り組みも進行中です。

加えて、長年の課題であった観光振興の担い手不足についても、観光協会の一般社団法人化により、継続的・組織的な観光推進体制の構築に向けた動きが見え始めています。

このように、北秋田市の観光を取り巻く環境は大きな転換期を迎えており、今後は地域資源を持続的かつ効果的に活用することで、魅力ある観光地域の形成を目指す必要があることから、「第3次北秋田市総合計画」の策定に合わせ、新たに本市観光振興の指針となる「北秋田市観光振興ビジョン」を策定するものです。

本ビジョンは、北秋田市の豊かな自然や地域に根差した文化、歴史的資源などを持続的かつ戦略的に活用し、観光による地域経済の活性化と魅力ある地域づくりを実現することを目的とするものです。観光振興に関する基本的な方針と施策の方向性を明確に示すことで、市として一体感を持った取り組みを可能とし、将来を見据えた観光戦略の基盤を築いていきます。

また、対外的な施策のみならず、地域の内側からの活力を引き出すことにも重点を置いています。目指す姿や施策を住民と共有し、地域への誇りや愛着を育み、地域づくりへの参加意識や協働の姿勢を高めていくことも大きな狙いの一つです。

本ビジョンを通じて、市内外の人々にとって魅力ある「観光地域としての北秋田市」を確立するとともに、住民が誇りを持って暮らし続けられる地域の実現を目指します。

2. ビジョンの位置付け

本ビジョンは、「第3次北秋田市総合計画」の方針を踏まえ、北秋田市独自の自然や文化、歴史といった特性を生かしながら、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るための戦略的な指針を示すものです。

また、行政のみならず、住民や観光関係者、地域団体等との連携・協働のもとで持続的な観光振興を目指すため、具体的な施策を示します。

なお、対象期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とし、社会情勢や観光を取り巻く環境の変化に応じて見直しを行うものとします。

第2章 観光の現状と課題

1. 観光資源のポテンシャル

(1) 概要

北秋田市は、2005年（平成17年）3月22日に、北秋田郡の鷹巣町・合川町・森吉町・阿仁町が合併して誕生しました。合併の背景には、地域経済の低迷、第一次産業の衰退、住民ニーズの高度化、財政基盤の弱体化などがあり、これらに対応すべく、4町が合併協議会を設置して住民参加の説明会やアンケートなどを綿密に行い合意形成が図られました。

合併した当初の人口は約4万2千人で、その後は少子高齢化や過疎化の進展に伴い徐々に減少し、現在は約2万7千人となっています。

面積は約1,152km²と広大で、県内では第2位の規模を誇ります。市の面積の約85%が森林に覆われ、“花の百名山”にも選ばれた森吉山をはじめ、太平湖・小又峡など自然環境に恵まれています。また、市内には世界文化遺産に登録された縄文遺跡「伊勢堂岱遺跡」も存在するなど、歴史・文化資源も豊富です。

交通面では、大館能代空港が市北部に位置し、羽田空港まで約70分というアクセスの良さも魅力です。加えて、秋田内陸縦貫鉄道が山間地域を縫うように南北に貫き、観光列車としての価値も高めています。

これまで市では、キャッチフレーズ「住民が主役のもりのまち」を掲げ、豊かな自然と歴史・文化資源を活かした観光振興を進めています。

(2) 自然

市の中央部には標高1,454mの森吉山がそびえ立ち、高山植物や樹氷鑑賞を目的に毎年多くの登山客が訪れています。標高1,163m地点まで森吉山阿仁スキー場のゴンドラでアクセスできるため、気軽に新緑や紅葉が楽しめます。ゴンドラ終点付近は蔵王・八甲田と並ぶ樹氷の名所で、冬期間には国内外から観光客が多く訪れます。

一方、森吉山麓北東部の奥森吉（おくもりよし）地域は、手つかずの自然が色濃く残るエリアです。小又峡や桃洞溪谷、太平湖など豊かな溪谷美とブナ林が特徴です。遊歩道や自然体験施設が整備されており、カヌー、トレッキング、自然観察など体験型観光が注目されています。季節ごとの景観美や環境教育の場としても高い価値があり、地域資源を活かした持続可能な観光の推進が期待されています。

また、南部の奥阿仁地域は、中ノ又・立又溪谷に代表される雄大かつ繊細な滝の景観が魅力です。特に中ノ又溪谷の最奥にある高さ約90mの「安の滝」は、上下段式の壮麗な瀑布で、日本の滝百選第2位に選ばれています。遊歩道も整備されていて、ブナの原生林を巡る散策路は、新緑や紅葉とのコントラストが美しく、自然教育や体験観光の場としても活用されています。

これら多様な滝と溪谷の美しさは、森吉山の奥深い魅力の一部を形成しており、総合アウトドア企業「モンベル」との連携に基づき設定された、北東北で初となるジャパンエコトラック「北秋田 森吉山」の中でも主要ハイキングルートとして紹介されるなど、自然愛好家やファミリー、教育旅行対象にも有効かつ持続可能な「自然体験観光」の基盤が整いつつあります。

（３）歴史文化

この地域には古代の縄文文化を今に伝える貴重な文化資産が豊富に残っています。中でも約 4,000 年前の「伊勢堂岱（いせどうたい）遺跡」は環状列石が密集して発掘され、土偶や祭祀用具などが多数出土して国の史跡に指定されました。2021 年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録され、展示施設「縄文館」を通年公開しており、環状列石と併せて縄文文化への理解を深めることができます。

また、森吉山麓では、古くから「マタギ」と呼ばれる狩猟者たちが活動し、厳しい自然と共生する独自の文化を築いてきました。マタギ文化は獲物への敬意や資源管理の知恵を伝承し、現在も地域の誇りとして体験学習や観光資源に活かされており、昨今の都市部へのクマ出没を受け、こうしたクマと共生する知恵をマタギ文化から学ぶことが改めて見直されています。

一方、江戸～明治期には阿仁（あに）鉱山が金・銀・銅の採掘で全国有数の鉱山として栄え、その産業遺産やドイツ人技師の居宅を活用した「阿仁異人館・伝承館」などが残されています。

民俗文化としては、「阿仁マタギ」の狩猟具（重要有形民俗文化財）、国指定の無形民俗文化財「根子番楽」、ギネス世界一に認定された綴子の太鼓、阿仁地方の万灯火などが継承され、地域の暮らしと密接に結びついています。さらに、羽州街道の一里塚や浅利氏ゆかりの城跡、江戸時代の歴史的建造物も点在し、旧街道沿いの風情ある景観が残っている点も魅力的です。

このように北秋田市は、縄文から江戸・明治・昭和にかけての歴史が層として重なり、自然とともに息づく文化遺産を感じられる地域です。

（４）観光施設

アウトドア愛好家には、花の百名山である森吉山の高山植物、冬は森吉山阿仁スキー場で樹氷鑑賞やスキーが楽しめるほか、奥森吉小又峡観光も人気です。子ども連れには、ツキノワグマやヒグマと対面できる「くまくま園」での餌やり体験が好評を得ています。大館能代空港の近くには、北欧の雰囲気漂う広大な「北欧の杜公園」が整備されており、大人から子どもまで幅広くアウトドアを楽しむことができます。

歴史文化施設では、阿仁異人館・伝承館（旧鉱山技師宿舎）、マタギ資料館、太鼓の館などがあり、明治期の鉱山技術や猟文化、伝統芸能に直接触れることができます。

また、秋田内陸縦貫鉄道の旅では、阿仁合駅、阿仁マタギ駅など東北駅百選に選ばれた駅巡りに加え、周辺の温泉や滝巡りが好評です。さらには、市内にある3つの道の駅（たかのす、大館能代空港、あに）では、地元産品や軽食が楽しめ、アクセス拠点としても利便性の高い施設となっています。

なお、本市の主要観光施設の一つである森吉山阿仁スキー場は、開設から40年近くの年月が経過し、阿仁ゴンドラをはじめ、施設・設備の老朽化が顕著となっているほか、本県で最初に道の駅として認定された道の駅たかのすでは、大太鼓の館も含めたりリニューアル整備事業が進んでいます。

（5）イベント

暑い夏を彩る伝統的なまつりや花火大会が年間を通じて実施され、市民や観光客に親しまれています。7月初旬に開催される「北秋田市米代川花火大会」は、およそ3,000発の花火が米代川河川緑地で打ち上げられます。

また、7月14～15日の「綴子（つづれこ）大太鼓祭り」（綴子神社例祭）は迫力ある大太鼓の演奏が繰り広げられる伝統行事です。お盆には「阿仁の花火と灯籠流し」が阿仁河川公園で行われ、1,000基の絵灯籠が川面に静かに揺れる中、およそ3,000発の花火が山峡の夜空を照らします。

その他にも「合川ふるさとまつりと合川まと火」（8月14日）、「根子番楽」（同日）など、郷土芸能や地元の食・夜店が賑わう夏のイベントが充実しています。

（6）食文化

里山の自然と先人の知恵が活かされた多彩な郷土料理と特産品が魅力です。マタギ文化に根ざすクマ鍋やウサギ鍋を始め、馬肉料理もかつての鉱山労働者の滋養食として今に伝わります。全国的に知られる「きりたんぼ」の起源はマタギの保存食とも言われ、今は比内地鶏や野菜と共に味わう鍋料理として親しまれています。

また、囲炉裏で燻す伝統漬物「いぶりがっこ」や、雪国ならではの凍み大根、山菜・きのこ・川魚などの自然の恵みも季節ごとの楽しみです。おやつ文化も個性的で、市民に愛される“ふわもち”食感のバター餅は各店舗で作られており、店ごとに風味や食感が異なる食べ比べの楽しみもあります。

（7）伝統工芸

北秋田市には、地域の歴史や自然を反映した多彩な伝統工芸も息づいています。まず、樺細工（かばざいく）は、合川鎌沢地区で室町時代に神職の御処野家から技法が伝わり、江戸期に角館へ広まりました。市内には発祥の地を示す石碑が残されています。

また、市内で唯一の伝統工芸とされる「天然秋田杉桶樽（あきたすぎおけたる）」は、天然秋田杉の端材を用い、伝統工芸士・佐藤秋男さんが代々手づくりで製作しており、

桶からカップやワインクーラーなど近代の生活にも応じた製品を作り続けています。

さらに、旧鷹巣町には絹織物の秋田八丈工房があり、草木染めから「畝織（うねおり）」による織りまで全工程を一人で手掛ける手仕事。反物やネクタイ、名刺入れなどに形を変えて現代に伝承され、市ふるさと納税返礼品にも採用されています。

これらの工芸は、素材と技の地域固有性が強く、工房見学や体験教室、商品開発・販売支援などを通じて「ものづくり観光」の核となる可能性を秘めています。

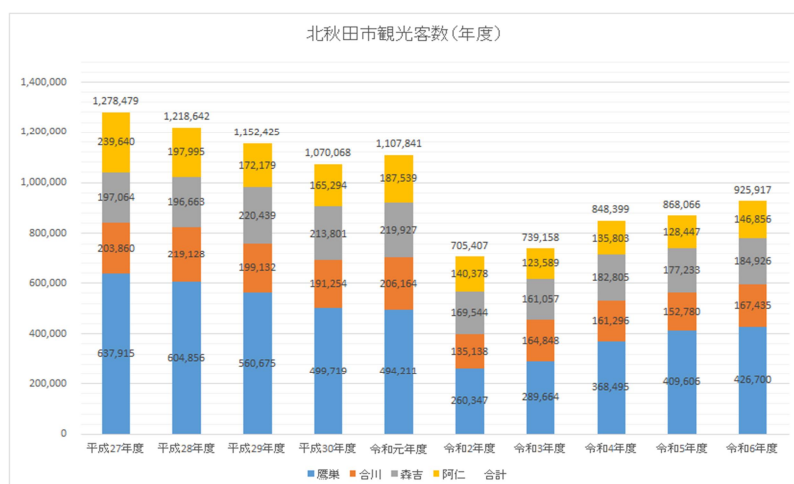
2. 観光客の動向

(1) 観光入込客数

ここ10年間の本市の観光入込客数は、平成27年度の1,278,479人をピークに、令和元年度まで概ね年間100万人を超える水準で推移していましたが、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な落ち込みが見られ、令和元年度比で約36.6%減少の705,407人となりました。コロナ禍が終息し、令和4年度には848,399人まで回復し、令和6年度は925,917人まで増加し、回復基調は顕著になっております。

また、地域別に見ると、合川・森吉地区の観光客数は比較的安定的に推移しており、特に森吉地区は毎年15万人超を維持しておりますが、鷹巣地区と阿仁地区では回復に時間を要しております。

かつて年間4千人前後で推移していた外国人観光客数は、コロナ禍で一時的に激減しましたが、令和4年度以降は急激な回復を見せ、令和6年度には令和元年度の約3.6倍にあたる15,328人を記録しました。

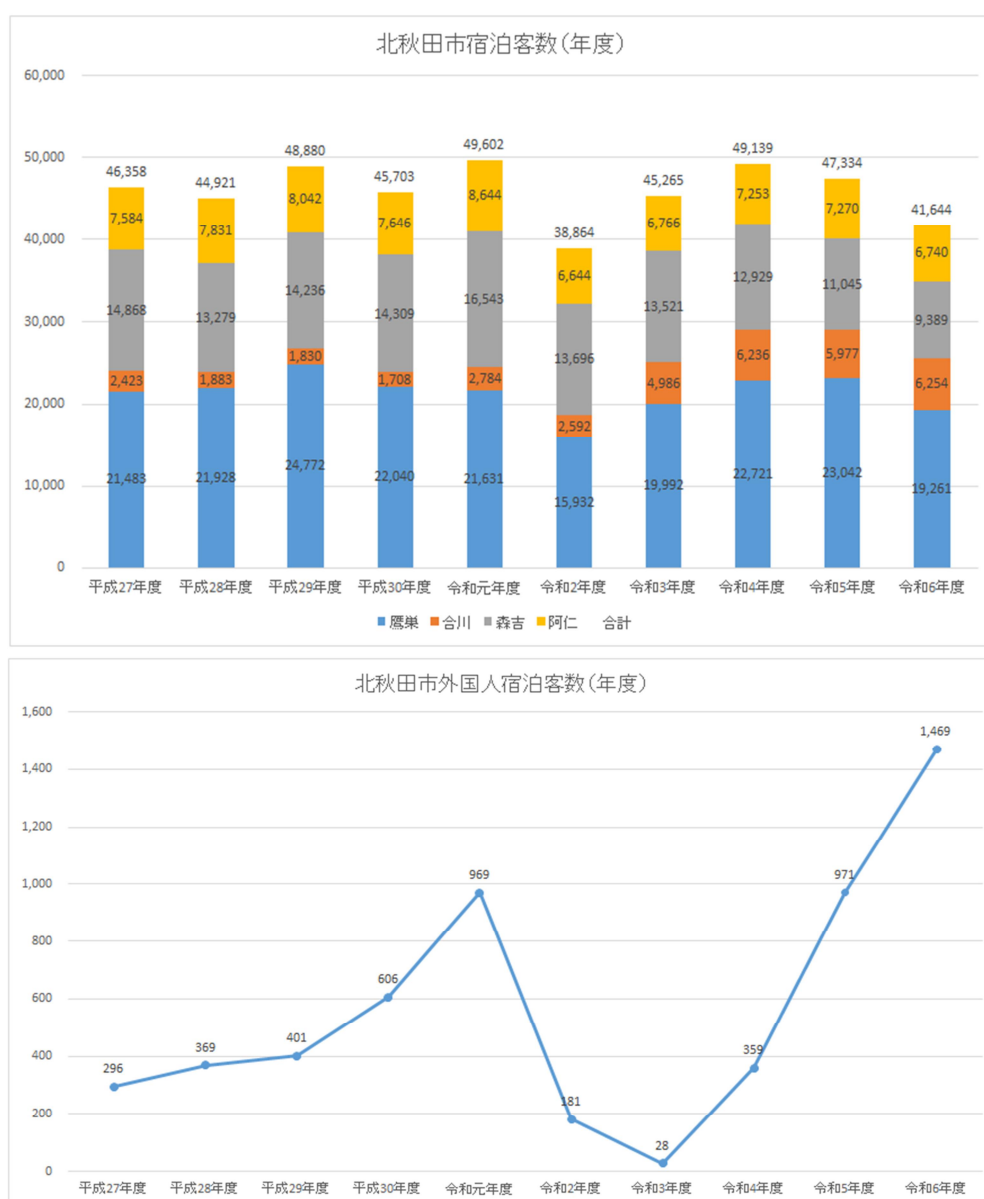


※北秋田市調べ

(2) 宿泊客数

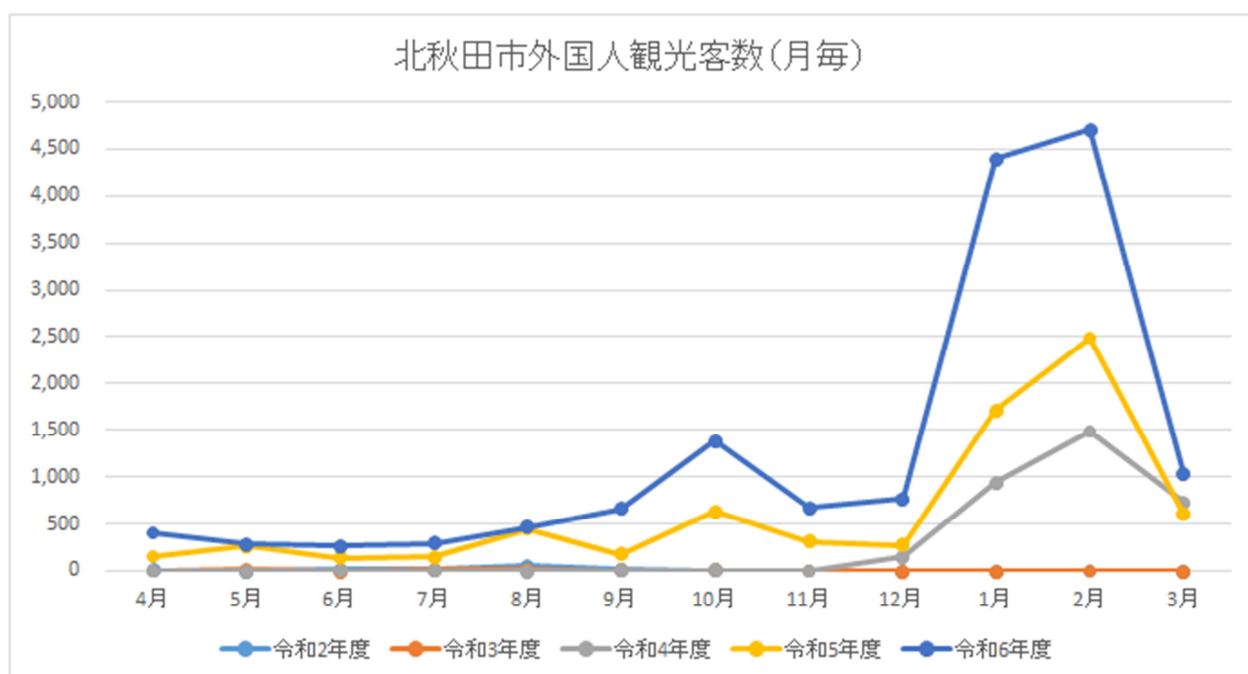
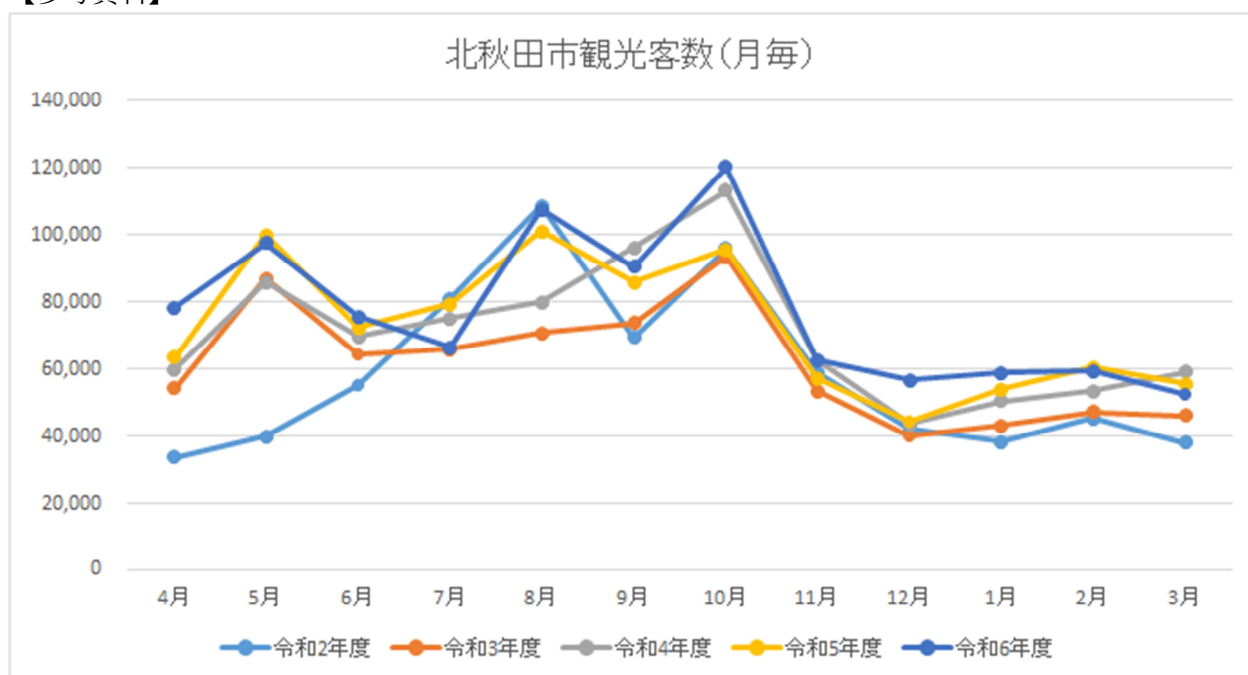
平成 27 年度から令和元年度までは、おおむね年間 4 万 5 千人前後で推移しており、令和元年度には 49,602 人と、10 年間で最も多い宿泊客数を記録しましたが、令和 2 年度には、新型コロナウイルス感染症の影響を受け 38,864 人まで減少しました。コロナ禍後、令和 4 年度には 49,139 人と令和元年度の水準まで回復しましたが、近年は宿泊施設の廃業等の影響もあり、減少傾向にあります。

外国人宿泊客数は、平成 27 年度から徐々に増加し、令和元年度には 969 人を記録しました。令和 2 年度からの 2 年間はコロナ禍により激減したものの、その後は回復傾向にあり、令和 6 年度には過去 10 年間で最多の 1,469 人となりました。

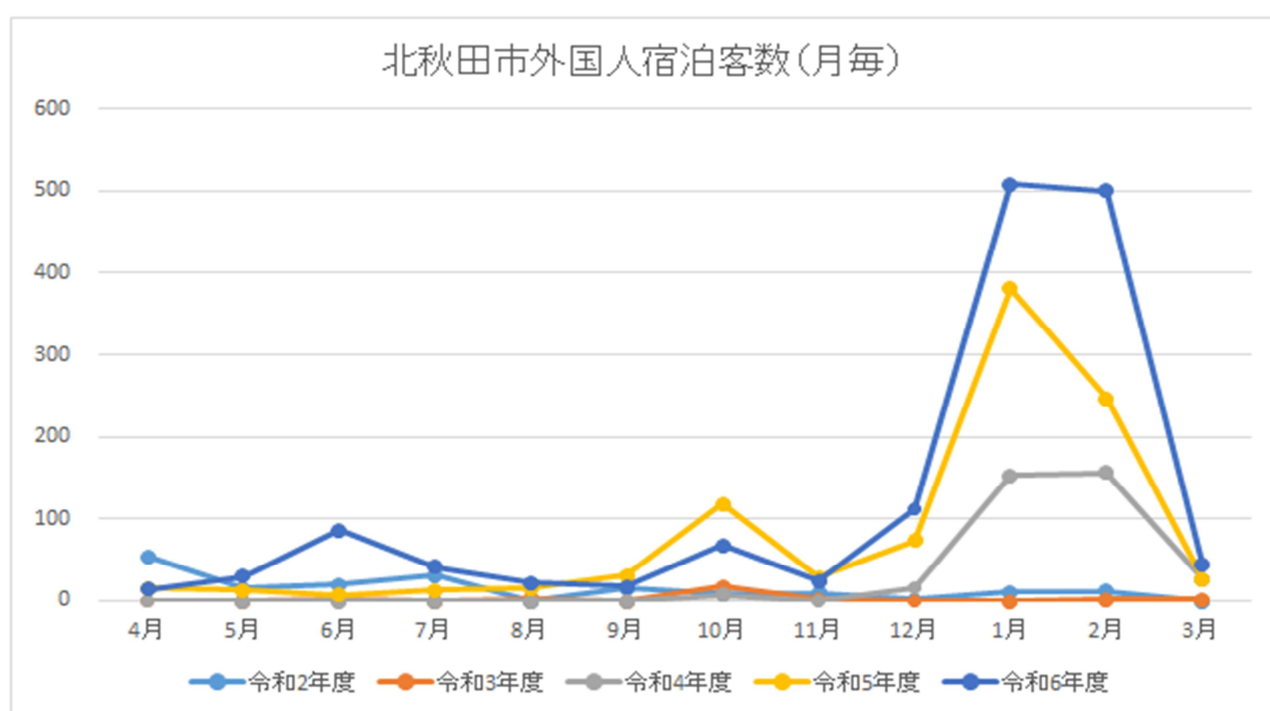
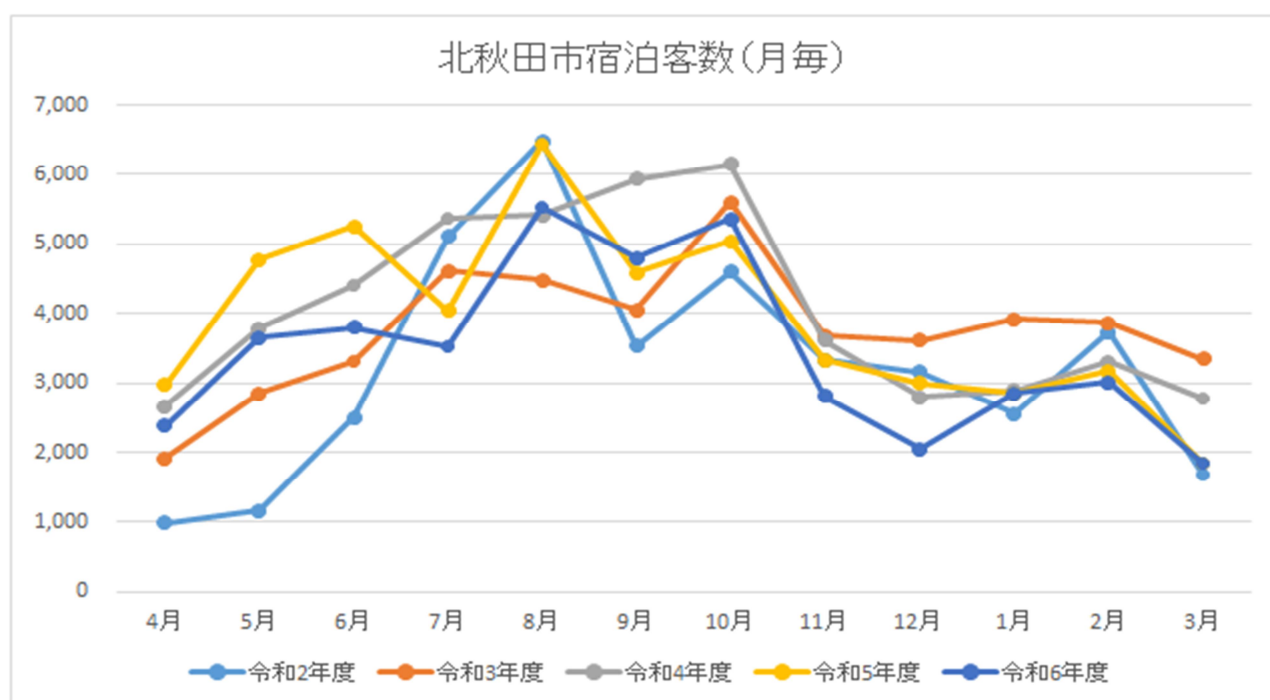


※北秋田市調べ

【参考資料】



※北秋田市調べ



※北秋田市調べ

3. 課題の整理

本市は、大館能代空港や秋田内陸縦貫鉄道といった交通インフラを有し、国道7号や105号、秋田自動車道（鷹巣大館道路）など主要道路が交わる交通の要衝となっています。加えて、森吉山をはじめとする雄大な自然やマタギ文化、世界文化遺産の伊勢堂岱遺跡、世界一の綴子大太鼓など、他地域にはない個性豊かな観光資源にも恵まれています。

しかしながら、こうした魅力的な地域資源は十分に活用されておらず、観光客の滞在や消費につながる仕組みも構築されているとは言えない状況にあります。

観光客を受け入れる環境の整備、情報発信、地域住民の主体的な関わり方など、観光を地域の力に変えていくためには、様々な課題を段階的に解決していく必要があります。

以下に、本市が抱える主な観光の課題を整理します。

（1）観光拠点の整備と観光人材の育成

本市では、好奇心を持ってこの地域を訪れる人々を受け入れる体制の整備がまだ十分とは言えず、観光の拠点となる施設や観光案内所の機能強化、観光地間の連携を高める仕組みが必要です。

また、観光を支える人材（＝観光地域づくりのプレイヤー）の育成も不可欠です。プレイヤーが不足している主な原因としては、専業とするには経済的インセンティブが低いことや、外部の観光人材を含めた既存のプレイヤーが連携できる仕組みや定着支援の不足等が挙げられます。

こうした課題の解決に向けては、核となる観光拠点を整備し、現地に精通した観光ガイド、地域の魅力を直に伝える体験プログラムの運営者などを中心に、地域住民や事業者、自治体が連携しながら、観光に関わる仕組みを整えることで、地域一体となった「おもてなし」が実現します。

なお、市内の主要観光施設の中には、森吉山阿仁スキー場を筆頭に老朽化が顕著なものも多く、利用者の安全・安心を確保するため、計画的な改修を行うとともに適切な維持管理を図る必要があります。

（2）滞在型観光の推進と宿泊施設の充実

観光入込客数に対する宿泊客数の割合が低いことから、本市を訪れる観光客の多くは日帰りや短時間の立ち寄りであり、市内での消費や交流の機会が限られています。

一方、森吉山をはじめとした自然景観は季節毎に多彩な魅力があり、登山やトレッキング、サイクリングやスノーアクティビティなど、滞在を前提とした体験型観光との親和性が高い資源です。加えて、地域の食材を活かした食体験、さらに本市ならではのマタギ文化や世界文化遺産伊勢堂岱遺跡を活用した学びの場などを組み合わせ、付加価値の高い観光商品として磨き上げることで、滞在時間を伸ばし、消費額を上げ、地域経済への波及効果を高めることができます。

また、滞在型観光に欠かせない宿泊施設については、インバウンドも含め団体ツアーに対応できる施設が不足しており、旅行会社へのセールス活動などに対応できない状況です。加えて、既存施設においては、事業者の高齢化による後継者不足や施設の老朽化により、宿泊施設の数も減少傾向にあります。

一方、近年は数軒ではあるものの、多様な観光客のニーズを捉えた本市ならではの魅力を体感できる体験型の宿泊施設が生まれています。

今後は、団体客に対応できる比較的規模の大きい宿泊施設の誘致活動と並行して、既存の宿泊施設に対する支援強化、小規模でも地域の独自文化を感じることができる魅力的な宿泊施設の開設など、多様なニーズに対応できる宿泊供給力の強化が求められます。

(3) 移動環境の整備

本市を訪れる観光客の多くは自家用車やレンタカーを使用しており、地域住民と同様に車中心の移動が主流となっていることから、来訪者が市内を安全・快適に移動できるよう、主要道路や観光施設周辺の案内看板、視認性の高いサインの整備が求められるほか、雪のため路面凍結等で道路状況が厳しくなる冬季については、観光客が安心して利用できる交通手段の整備も必要です。

公共交通を利用して本市を訪れる観光客の移動に関し、特に重要なのが大館能代空港や主要駅と各観光地点を結ぶ2次アクセスです。現在、大館能代空港からは飛行機の発着に合わせて空港と市街地を結ぶ空港リムジンバスがあるほか、大館能代空港とJR鷹ノ巣駅や大太鼓の館、伊勢堂岱遺跡を結ぶ予約制の乗合タクシーが運行されています。

同様の仕組みで、森吉山観光の足として、WEB予約・決済も可能な「森吉山シャトル」が整備されており、空港や鷹ノ巣駅のほか、秋田内陸線の阿仁合駅や阿仁前田温泉駅から森吉山の主要地点を結ぶコースが設定されています。

これら2次アクセスのサービスについては、まだ認知度が低いため、利用促進に向けては、情報発信の工夫とともに、需要と供給のバランスを見極め、地域交通を担う事業者との連携強化も必要となります。

(4) 効果的な情報発信

豊富な観光資源がありながら、観光客が求める情報の一元化が不十分であるなど、効果的な観光情報の発信には課題があり、観光客の利便性向上に向けて、旅行前・旅行中・旅行後にそれぞれ必要な情報を、スムーズに入手できる体制の整備が必要となります。

また、限られた予算の中では、ターゲットを見据えた情報発信が必要不可欠であり、特に首都圏や近隣県など来訪ポテンシャルの高い地域の人に向けて本市の観光情報を届けるためには、その内容に応じてSNSやオンライン広告などを効率的かつ効果的に活用した取組が求められます。

一方、秋田県内における本市の認知度もまだまだ上げていく必要があり、「北秋田市と

例えば〇〇」と連想されるようなテーマ設定やキーワードの打ち出しとともに、県内外の両方を意識した二段構えの情報発信がカギとなります。

森吉山の自然やマタギ文化といった独自性を軸に、観光地としての魅力をしっかりと言語化していくことで北秋田市の観光ブランドを確立し、数ある観光資源の魅力を的確にターゲットへ届ける情報発信を心がけることが重要であり、今後は、データ分析や市場動向に深い知識を持った人材や、SNS を始めたとした発信手法等の知見が求められ、さらなる体制強化を図ることが課題となっています。

(5) 住民が主体的に観光に関わる仕組みづくり

観光を地域の未来につなげるためには、地域住民が主体的に関わる仕組みの構築が欠かせません。観光資源は特別な施設や体験だけでなく、地域の人々が日々の暮らしの中で培ってきた知恵や経験そのものでもあります。すなわち、そこに住む「人」こそを観光の要素として認識し、訪れる人にとって学びや感動となるような体験へとつなげていく視点が重要です。

特に今後は、地域の実情に詳しい地元のリーダーや、新しい視点を持った観光地域づくりのプレイヤーが中心となって地域の魅力を再発見し、地域内外で発信する動きが求められます。地域住民を巻き込みながら、そこを訪れる観光客との交流の中で新たな価値が生まれるような場を創り育てていくことが、持続可能な観光の実現につながります。

住む人が誇りを持って自分のふるさとの素晴らしさを語ること、これは必然的にこれからの北秋田市を担う次世代に向けたメッセージにもなります。このことは、郷土愛の創出のみならず、北秋田市の豊かな観光資源を未来につなげるために、住民自身が担う大切な役割であり、観光は一部の事業者、一部のプレイヤーが担うものではなく、地域全体で作りあげていく「地域の仕事」であるという意識の醸成が大切になります。

第3章 目指す姿

森吉山をはじめとする雄大な自然は、四季折々の表情を見せ、訪れる人々に深い感動を与えてくれます。また、山とともに生きてきたマタギの文化や、古くから受け継がれてきた地域独自の祭りや郷土芸能などは、北秋田の風土と人々の知恵が織りなすかけがえのない財産です。

今に生きる私たちには、これらの資源を守りながら活用し、観光を通じて地域の魅力を再発見するとともに、誇りを持てる環境を整え、地域内外の人々との交流を重ねることで、新たな価値や視点を取り入れ、地域全体の活性化につなげていくことが求められます。

観光の振興は、誘客による経済効果を追求することにとどまらず、地域を育てる手段であり、さらには、未来に向けた持続可能なまちづくりの一翼を担うものと捉え、市民とともに取り組むことが大切です。

豊かな資源と、そこに暮らす人々の営みを観光の力で磨き上げ、地域の価値として次世代へ継承していくため、北秋田市観光の「目指す姿」を以下のとおり定め、時代や社会情勢の変化に左右されることのない普遍的なビジョンとして位置づけるものとします。

《北秋田市観光の目指す姿》

自然と文化を未来へつなぐ、住民が誇る北秋田

～森吉山の恵みとふるさとの文化を生かし、
人とのつながりから生まれる価値を地域の力に～

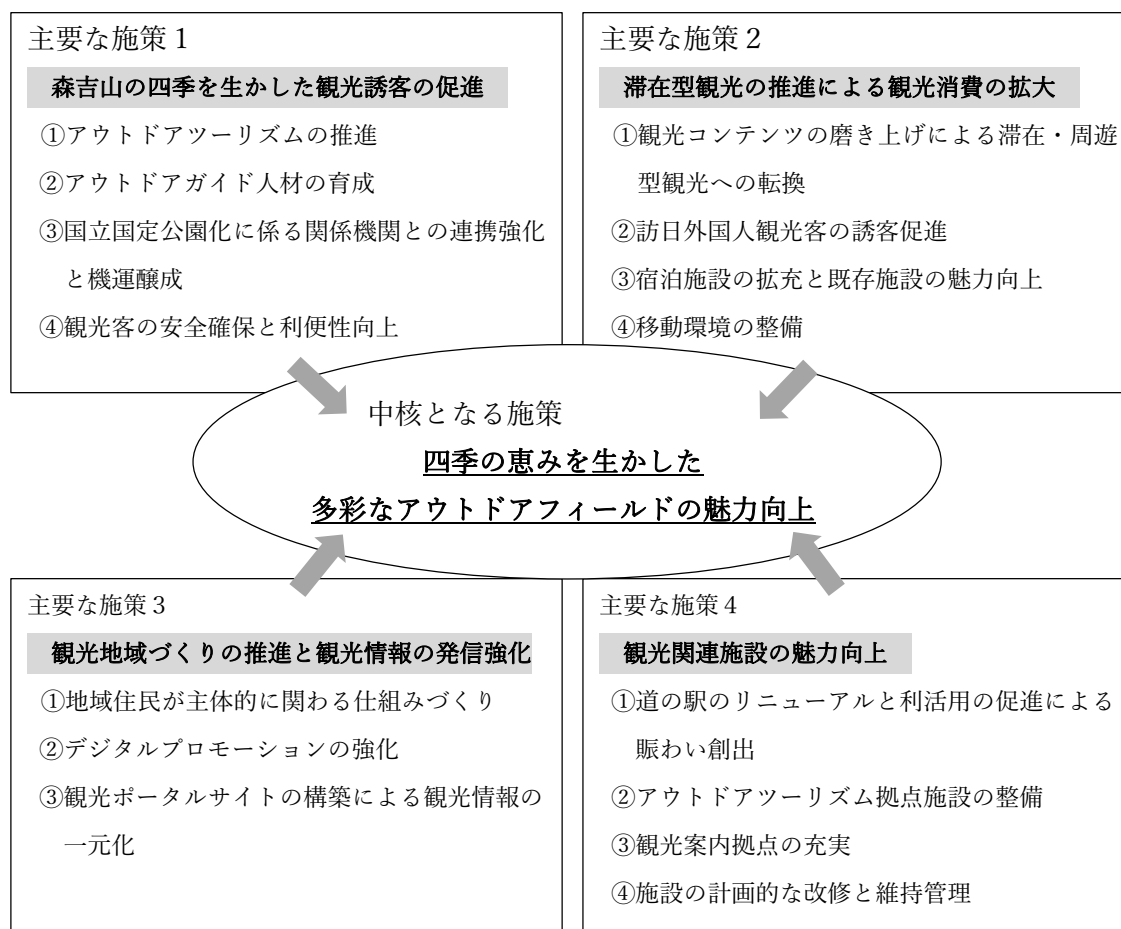
森吉山を中心とした豊富な自然資源とマタギ文化をはじめとする地域の営みは、次の世代に継承すべき本市の貴重な財産です。これら古くから守られ息づいてきた本市特有の自然や文化、歴史を活用した観光振興に取り組み、市民の誇りを育み、訪れる人との交流を重ねながら次世代につなぐ、持続可能な観光地域を目指します。

「北秋田市を象徴する写真・イラスト」

第4章 施策と目標

1. 施策体系

北秋田市観光の普遍的なビジョンとなる目指す姿を実現するために、今後取り組むべき施策を以下のように掲げます。



2. 中核となる施策

本市の大きな強みである多彩な自然環境と独自文化を、誘客促進のための観光コンテンツとして磨き上げるとともに、アウトドア観光の拠点を整備し、周遊ならびに滞在型観光の推進と地域との交流を促進します。

そのための中核となる施策を「四季の恵みを生かした多彩なアウトドアフィールドの魅力向上」と定め、アウトドアツーリズム関連の施策を着実に推進するため、令和6年度に策定した「北秋田市アウトドアグランドデザイン」（別冊）を最大限活用し、本市のアウトドアツーリズムの現状と課題分析に基づき、より具体的なアウトドアフィールドの環境整備と受入体制の強化を図ります。

また、目指す姿の実現に向けた4つの主要な施策と、それぞれの主な取組例について、以下のとおり示します。

3. 主要な施策と取組例

主要な施策1：森吉山の四季を生かした観光誘客の促進

① アウトドアツーリズムの推進

登山やトレッキングはもちろん、冬の樹氷観賞やウィンタースポーツ、グリーンシーズンの溪流釣りやカヌーなど、多彩なアクティビティを提供することで、体験の質を高めます。

【主な取組例】

- ・登山やサイクリング、パドルスポーツ等の自然体験イベントやツアーの開催
- ・キャンプ環境の整備やアウトドア用品及びレンタル環境の充実
- ・WEBと連動したマップの整備

② アウトドアガイド人材の育成

森吉山独自の自然環境や文化を観光客に伝え、安全な体験を支えるアウトドアガイド人材を育成し、観光客に十分に対応できる体制を確保します。

【主な取組例】

- ・ガイド研修会、養成講座の開催
- ・多言語対応や救急対応などのスキル習得支援
- ・ガイドと観光事業者のネットワークづくり

③ 国定公園化に係る関係機関との連携強化と住民機運醸成

環境省や県自然保護課など関係機関と緊密に連携・協力し、住民への説明や啓発活動を通じて地域の自然資源に対する理解と誇りを深め、保全と観光利用の両立を図ります。

【主な取組例】

- ・住民説明会や自然学習会イベントの実施
- ・森吉山の魅力を伝えるパンフレットや動画制作
- ・保全活動や美化運動への地域参加促進

④ 観光客の安全確保と利便性向上

登山道整備や防災体制の強化とともに、多言語対応や交通環境を整備し、観光客が安心して楽しめる環境づくりを進めます。

【主な取組例】

- ・登山道や自然散策ルート of 維持補修管理
- ・案内板表示の整備
- ・気象、交通情報を含む多言語情報発信

主要な施策2：滞在型観光の推進による観光消費の拡大

① 観光コンテンツの磨き上げによる滞在・周遊型観光への転換

自然・文化・食を生かした観光コンテンツを磨き上げ、体験型プログラムの拡充を図るとともに多様な周遊ルートを確認し、宿泊に繋がる仕組みの構築を目指します。

【主な取組例】

- ・市内観光地や観光施設を有機的に結びつけたモデルルートの形成
- ・体験型コンテンツの開発支援
- ・マタギ文化や縄文学習プログラムの提供
- ・空き家や空き店舗、遊休施設の活用を検討

② 訪日外国人観光客の誘客促進

旅行会社との商談会や各種プロモーションの実施により旅行商品の造成を促進するとともに、多言語対応の充実など受入態勢の強化を図ります。

【主な取組例】

- ・多言語案内板、パンフレット整備
- ・旅行会社商談会、観光フェア等におけるプロモーション
- ・訪日外国人向け体験型プログラム造成

③ 宿泊施設の拡充と既存施設の魅力向上

多様なニーズへの対応と長期滞在やリピーター化の促進に向けて、ホテル誘致を進めるとともに、既存施設への支援等を検討します。

【主な取組例】

- ・新規ホテル誘致活動
- ・森吉山荘の再稼働や市所有宿泊施設の魅力向上
- ・市内民間宿泊施設への支援強化

④ 移動環境の整備

観光客が快適に移動できる環境の整備に向けて、2次アクセスのさらなる利便性向上やきめ細かな情報提供に努めます。

【主な取組例】

- ・空港や主要駅を起点とした乗合タクシー（森吉山シャトル等）の認知及び利便性の向上
- ・レンタカー、レンタサイクル環境の充実
- ・季節やイベントに合わせたアクセス手段の確保と情報提供

主要な施策3：観光地域づくりの推進と観光情報の発信強化

① 地域住民が主体的に関わる仕組みづくり

持続可能な観光地域づくりを推進するため、地域住民がガイドやイベント運営等に主体的に関わる仕組みを整えます。

【主な取組例】

- ・住民参加型イベントへの支援
- ・地元の文化や地域事情に精通した人材の積極的な活用
- ・北秋田市観光に関する市民出前講座の実施

② デジタルプロモーションの強化

本市の認知度を高め、来訪意欲を喚起するため、ターゲットを意識しながら SNS や動画配信を活用した効果的な情報発信に取り組みます。

【主な取組例】

- ・戦略的なデジタルマーケティング・プロモーションの実施
- ・公式サイトや SNS によるタイムリーな情報発信の強化

③ 観光ポータルサイトの構築による観光情報の一元化

一般社団法人北秋田まちづくり観光協会と連携して、市の観光情報を一元的に入手できるポータルサイトを構築・運用します。

【主な取組例】

- ・観光ポータルサイトの運営管理
- ・イベントカレンダーや施設情報の集約
- ・多言語対応による利便性強化

主要な施策4：観光関連施設の魅力向上

① 道の駅のリニューアルと利活用の促進による賑わい創出

県内第1号の道の駅である「たかのす」を、観光客と地域住民が交流できる空間としてリニューアルを行い、地域の賑わいを創出します。

【主な取組例】

- ・道の駅たかのすの子育て応援機能、飲食物産機能の強化
- ・道の駅等を活用したマルシェやイベントの開催
- ・観光関連施設における地域文化体験、ワークショップの実施

② アウトドアツーリズム拠点施設の整備

観光客が安心してアウトドア体験を楽しめる環境づくりに向けて、本市のアウトドアアクティビティに関する情報発信機能やレンタル機能、休憩機能を備えた拠点施設を整備します。

【主な取組例】

- ・道の駅たかのすへのツーリストセンターの設置
- ・アウトドア用品のレンタル体制の整備
- ・自然体験プログラム受付窓口の設置

③ 観光案内拠点の充実

旅前・中・後における観光客の問い合わせにスムーズに対応できる観光案内体制を充実させ、分かりやすく便利な情報提供を行います。

【主な取組例】

- ・観光案内拠点での情報提供の充実
- ・周遊モデルコース、各種体験コンテンツの発信

④ 施設の計画的な改修と維持管理

本市の観光誘客に中心的な役割を果たしている森吉山阿仁スキー場の今後のあり方検討を行うとともに、観光関連施設の老朽化への対応や各種案内表示の整備など適切な維持管理に努めます。

【主な取組例】

- ・森吉山阿仁スキー場の索道施設等の計画的な更新・修繕とあり方検討
- ・観光関連施設における日常点検、修繕計画の実施
- ・観光案内板や誘導看板等の修繕及び更新

4. 目標設定

数値目標については、本ビジョンの上位計画である「第3次北秋田市総合計画」における観光関連部門のKPI（指標）を活用するほか、本ビジョン独自の指標として「訪日外国人観光客の観光消費額」を追加し、定量的な進行管理を行います。

また、目標設定期間は、令和8年度から令和12年度の5年間とします。

数値目標

主要な施策1 森吉山の四季を生かした観光誘客の促進

■KPI① 森吉山県立自然公園入込数（延べ人数）

《達成目標》令和6年度の森吉山県立自然公園入込数約61,000人（実数61,017）人から3.2%アップの63,000人を目標とします。（単位：人）

	令和6年度	計画期間				
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値		61,400	61,800	62,200	62,600	63,000
実績値	61,000					

（計測手法：北秋田市観光入込調査）

主要な施策2 滞在型観光の推進による観光消費の拡大

■KPI② 市内宿泊施設の宿泊客数（延べ人数）

《達成目標》令和6年度実績値から12%アップの47,000人を目標とします。（単位：人）

	令和6年度	計画期間				
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値		42,000	42,000	42,000	42,000	47,000
実績値	41,644					

（計測手法：北秋田市観光入込調査）

■KPI③ 訪日外国人観光客の観光消費額

《達成目標》令和6年度実績値から各年7%アップを目標とします。（単位：千円）

	令和6年度	計画期間				
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値		223,282	238,912	255,636	273,530	292,677
実績値	208,675					

（計測手法：北秋田市観光入込調査における訪日外国人観光客数×秋田県観光統計における訪日外国人（観光目的）の消費額単価）

主要な施策3 観光地域づくりの推進と観光情報の発信強化

■KPI④ 市内イベント及び文化施設観光入込客数

《達成目標》令和6年度実績値から15%アップの50,000人を目標とします。(単位:人)

	令和6年度	計画期間				
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値		44,000	44,000	49,000	49,500	50,000
実績値	43,047					

(計測手法:北秋田市観光入込調査)

主要な施策4 観光関連施設の魅力向上

■KPI⑤ 市内道の駅の観光入込客数

《達成目標》令和6年度実績値から168%アップの750,000人を目標とします。(単位:人)

	令和6年度	計画期間				
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値		370,000	375,000	730,000	740,000	750,000
実績値	363,620					

(計測手法:北秋田市観光入込調査)

※対象施設:道の駅たかのす・四季美館・道の駅あに

第5章 施策の実施体制

1. 各取組主体の役割

前章における主要な施策を効果的に推進していくためには、多様な主体が互いに連携し、それぞれの立場から力を発揮することが不可欠です。

観光振興の取組は、宿泊や交通といったサービスに留まらず、地域資源の磨き上げや情報発信、受入環境の整備など幅広い分野にまたがり、一つの主体だけでは十分に対応することができません。だからこそ、市をはじめ、観光協会やDMOなどの観光関連団体、民間事業者、そして地域住民がそれぞれの強みを生かしながら役割を担い、相互に補完しつつ協働して取り組むことにより、北秋田市ならではの魅力を高め、観光による持続的な発展と地域経済の活性化につながることを期待されます。

(1) 市の役割

人口減少社会において、交流人口の拡大に寄与する観光の振興は、地域活性化のための有効な切り口であり、その主役は地域住民や民間事業者です。しかしながら、地域住民等が観光地域づくりに主体的に取り組む環境を整えなければ、こうした活動は長続きせず、新しい取組が生まれることもなくなります。このため、地域住民に一番身近な自治体である市の役割は大きく、次に掲げるような様々な取組が求められています。

まずは、本ビジョンで示した北秋田市観光が目指す姿を市民と共有し、進むべき方向を示すことが重要です。さらに、観光は裾野が広く本市にとって極めて大事な産業であるということを市民向けに周知し、北秋田市のブランドイメージを構築する過程を通じて、市民に本市の観光資源の価値を再認識してもらうことも必要となります。

また、市内外の様々な事業主体をつなぐための活動に取り組むとともに、庁内の他部局はもとより、官公庁や教育機関、他市町村等との広範な連携強化を図りながら、住民が主役の観光地域づくりを積極的に支援し、豊かな観光資源に恵まれたこの地域を積極的に売り出していくことが求められます。

(2) 観光団体や観光関連事業者の役割

全国各地で観光地域づくりの取組が盛んに行われていますが、成功事例に共通しているのは、キーパーソンとなる「人」が、地域住民はもとより移住者や他地域の人たちも巻き込みながら、失敗を恐れず、夢中で一つのことに取り組んで活躍していることです。

観光地域づくりを成功に導くためには、こうした熱い思いをもった人たちや地元の民間事業者などが、主体的に地域を牽引し、他の有為な人材を巻き込んで地域を挙げた取組として進めていくことがカギになります。

加えて、持続可能なビジネスモデルとしての視点を持ち合わせることも大切であり、

観光事業者はもとより、農業や商工業といった異業種の方々とのネットワークを強固なものにすることも必要です。

本市においては、令和7年5月、北秋田市観光物産協会を発展的に解消し、新たに北秋田まちづくり観光協会が設立され、取組の三本柱として「協働の観光地域づくり」、「ファンをつくる情報発信」、「学びと遊びの体験型商品開発」を掲げ、従来とは一線を画した事業を展開しています。今後は、先に示した地域の取組と連携・協働しながら、本市観光の牽引役として強いリーダーシップを発揮していくとともに、本市を含む県北の広域エリアを管轄とする一般社団法人秋田犬ツーリズムとの協働による新たな事業展開が期待されます。

(3) 市民及び地域団体への期待

地域の住民や団体の方々の自発的な活動は、結果として地域づくりに大きな役割を果たします。特に裾野の広い産業である観光の振興には、環境美化や子供たちの自然体験メニューづくりといった、観光客誘致には直接結び付かないような活動でも、大きな効果をもたらすとともに、やがて地域住民が持つエネルギーを呼び覚ますことにつながります。

市民の皆様には、観光地域づくりに関心を持ちながら積極的に参加することを期待します。行政の取組も、観光事業者や観光団体の取組も、住民の関心・関与がないところでは成功は望めません。観光地域づくりの取組で地域全体が活性化していくためには、関連する様々な活動に住民が共鳴し参画するとともに、本市を訪れる観光客を温かな心でおもてなしすることが大切です。

2. 進行管理

本ビジョンの進行管理については、北秋田市第3次総合計画の進行管理と連動させ、第4章に掲げたKPI（数値目標）の達成状況を検証するものとします。特に、市役所や観光関連団体においては、PDCAサイクルのマネジメント手法を用いるなど、前年度の施策・事業の進捗状況を検証し、その結果を次年度以降の施策等に反映させることとします。

また、事業の進捗や達成状況が見える化し、市民とも成果や課題を共有することで、北秋田市観光の目指す姿の具現化につなげていきます。